

令和 3 (2021)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	個別的育児支援手法の創出を導く養育者—乳児の動態とその多様性創発原理の解明
研究代表者	明和 政子 (京都大学・大学院教育学研究科・教授) ※令和 3 (2021)年 7 月末現在
研究期間	令和 3 (2021)年度～令和 7 (2025)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>【課題の概要】</p> <p>本研究は、生後半年～1年半のヒト養育者—乳児の相互作用とそこに潜在する多様性の機構・機序、その生物学的基盤について、内受容感覚と外受容感覚の統合プロセスに着目して、身体生理データと行動制御の動態データを基に解明しようとするものである。</p> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】</p> <p>乳児期に焦点を当て、多様な親子それぞれに対する「個別型」育児支援の方法を創出する研究で、学術的・社会的価値が高いと考えられる。マウス実験との比較を行うことで、養育者—乳児の相互作用の生物学的基盤を明らかにしようとする点は野心的である。また、応募者らのこれまでの研究に立脚したもので、研究環境も整っていることから、着実な遂行が期待できる。</p>